

高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究（H24 - 精神 - 一般 - 009）

分担研究者 生駒 一憲（北海道大学教授）

研究要旨 北海道ブロックでは高次脳機能障害に対し、リハビリ支援コーディネート事業として支援

拠点機関を北海道大学病院に置くとともに、リハビリ提供・地域生活支援事業として、就労（準備）・就学（準備）支援事業、授産事業所利用支援事業、在宅生活支援事業が行われた。また、道内各地の保健所においてネットワーク会議、講演会、研修会、事例検討会、実態調査、パンフレット作成、相談、訪問指導、家族の集いなどが行われた。道内各地で保健所を中心とした支援ネットワークの構築が進んでいるが、高次脳機能障害者の社会参加をさらに推進するために、今後も医療関係者、福祉関係者、行政担当者、企業、一般住民など広範囲にわたり啓蒙活動が必要である。

A. 研究目的 北海道は高次脳機能障害支援モデル事業に札

幌市と共に参加し、平成18年度からはその体制を発展的に引き継いで高次脳機能障害支援普及事業が行われている。本研究では、自らこれに参加するとともに、道内の活動状況を調査し、望ましい社会参加支援の方法を探索する。 B. 研究方法

支援拠点機関と3つの道委託事業および道立保健所での活動状況などを支援拠点機関での自らの活動とブロック会議を通じて調査し、問題点を検討する。

（倫理面への配慮）患者が特定されるようなデータは公表しない。

C. 研究結果 支援拠点機関では相談支援コーディネータが

新たに着任した6月以降 相談件数が1176件、他機関との多職種カンファレンス等が20件であった。

就労（準備）・就学（準備）支援事業では、就労（準備）支援の実施件数は120件、担当者会議は28回、就学（準備）支援では、実施件数は100件、担当者会議は49回行われた。授産事業所利用支援事業では、利用が実58人（延2762件）、相談は126件、担当者会議は12回

行われた。

在宅生活支援事業では利用が24人（延1452件）、相談が186件、担当者会議が58回行われた。

道立保健所の取組では、道内各地において普及啓発・関係職員研修を27回、連絡会議を25回、事例検討を22回、相談は実158人（延592人）実施し、集団指導を10保健所で実施した。

以上のように、道内各地で活発な取り組みが行われた。

D. 結論と考察

高次脳機能障害者の社会参加支援が推進されるためには、医療関係者、福祉関係者、行政担当者、企業、一般住民など広い範囲で高次脳機能障害の周知と理解が進むことが必要である。今年度の取り組みは十分評価できるが、今後も継続して取り組みが必要である。

E. 研究発表

1. 論文発表

生駒一憲：認知機能に対する薬物療法とエビデンス．Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 50(7):525-529, 2013

澤村大輔：脳損傷後注意障害の作業療法．北海道作業療法,30(3),14-23,2013

2. 学会発表

安彦かがり, 千葉春子, 磯山浩孝, 浦上祐司, 松尾雄一郎, 遠山晴一, 生駒一憲: 高次脳機能障害が後遺したびまん性軸索損傷 (DAI) に拡散テンソル画像 (DTI) FA-SPMimage を施行した 4 例. 第 50 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 東京, 2013.6.13-15

大澤恵留美: カテゴリー特異的意味障害患者の回復過程. 第 14 回日本言語聴覚学会, 2013.6.28-29

澤村大輔, 生駒一憲, 小川圭太, 堀享一, 境信哉: Moss Attention Rating Scale 日本語版の鋭敏性の検討. 第 47 回日本作業療法学会, 2013.6.29

小川圭太, 澤村大輔, 伊藤愛, 角井由佳, 堀享一, 生駒一憲: 外傷性脳損傷における脳挫傷とびまん性軸索損傷合併例の神経心理学的検査結果の比較. 第 47 回日本作業療

法学会, 大阪国際会議場, 2013.6.29

小川圭太, 澤村大輔, 角井由佳, 大澤恵留美, 堀享一, 生駒一憲: 高次脳機能障害患者に対する外来集団訓練. 第 35 回国立大学リハビリテーション療法士学術大会, アクトシティ浜松研修交流センター, 2013.9.13

小川圭太, 澤村大輔, 角井由佳, 大澤恵留美, 堀享一, 生駒一憲: 高次脳機能障害患者に対する外来集団訓練. 第 44 回北海道作業療法学会, アクセスサッポロ, 2013.10.19

大澤恵留美: カテゴリー特異的意味障害患者の障害機序. 第 37 回日本高次脳機能学会学術総会, 2013.11.29-30

澤村大輔: Active inhibition for task-irrelevant sound in patients with attention deficits after traumatic brain injury: An fNIRS study, 30th

International Congress of Clinical Neurophysiology (ICCN) of the IFCN, ドイツベルリン, 2014.3.19-23

以下に、北海道の高次脳機能障害に対する活動の総括となる北海道ブロック会議の報告書と北海道の各事業の詳細報告とまとめの表、道立保健所の取り組み状況についての資料を添付する。

添付資料一覧

- 北海道ブロック会議報告書
- 北海道委託事業報告
 - リハビリ支援コーディネート事業 (支援拠点機関)
 - 就労 (準備)・就学 (準備) 支援事業 (中間報告)
 - 授産事業所利用支援事業 (中間報告)
 - 在宅生活支援事業 (中間報告)
- 委託機関における事業実施状況 (表)
- 保健所取り組み状況 (表・図)

高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究

平成 25 年度 北海道ブロック会議 報告書

北海道大学病院リハビリテーション科

生駒一憲

(平成 25 年度第 2 回高次脳機能障がい者支援連絡会議と同時開催)

開催日時 平成 25 年 1 月 23 日 (木) 13:30~16:30

開催場所 KKR ホテル札幌 3 階 鳳凰の間 (札幌市中央区北 14 条西 5 丁目)

出席者 50 名 支援拠点機関, 旭川医科大学, 道委託事業者 (家族会関係者を含む), 北海道医療ソーシャルワーカー協会, 北海道障害者職業センター, 札幌市精神保健福祉センター, 小樽市保健所, 旭川市保健所, 苫小牧地域生活支援センター, 教育庁学校教育局健康・体育課, 道立心身障害者総合相談所, 北海道精神保健福祉センター, 道立保健所, 道障がい者保健福祉課

1. 開会挨拶

北海道大学病院リハビリテーション科教授 生駒一憲が開会の挨拶を行った。

2. 議題

(1) 平成 25 年度道事務局事業・支援支援拠点病院・委託事業の報告が以下のように行われた。

リハビリ支援コーディネート事業について, 相談支援コーディネータが新たに着任した 6 月から 12 月までで, 支援拠点機関の北海道大学病院から相談件数が 962 件, 他機関との多職種カンファレンスが 13 件, 講演会・研修会の開催および所属員の講演・出席が計 13 件であったこと等が報告された。

リハビリ提供・地域生活支援事業 ア. 就労(準備)・就学(準備)支援事業について, 特定非営利活動法人コロポックルさ

っぽろから, 就学(準備)支援では, 支援対象者が 19 名で, そのうち新規支援が 3 名であったこと, 相談が 37 件であったこと, 関係機関との情報交換, 道特別教育支援センター, 保健所等と支援ネットワークの構築に努めたこと等が報告された。就労(準備)支援の実施件数が 95 件, 支援調整・会議の開催が 21 件であったこと, ハローワーク, 障害者職業センター等と支援ネットワークの構築を行ったこと等が報告された。

イ. 授産事業所利用支援事業について, 特定非営利活動法人 Re~らぶから, 施設の月毎の 1 日平均利用者数が 8.9~11.8 人, 相談支援件数が 105 件であったこと, 支援者担当会議を毎月開催したこと, 関係機関とのネットワーク構築, 授産製品の販売促進に努めたこと等が報告された。

- エ．在宅生活支援事業について、公益財団法人北海道精神保健推進協会（こころのリカバリー総合支援センター）から、利用登録者 21 名（うち新規 2 名）であったこと、当事者への支援、家族支援、支援関係者への支援、他機関との連携等に努めたこと等が報告された。
- (2) 道立保健所の取組状況について、精神障がい・発達支援グループ担当者より、道内各地において、講演会・研修会を 24 回、実態調査 2 件、パンフレット作成 9 件、連絡会議（ネットワーク会議）25 件、事例検討会 20 件、相談 447 件、訪問指導 152 件、集団指導 55 件であったこと等が報告された。道内各地で活発な取り組みが行われていることが示された。
- (3) 実践報告として、「パーソナルノートが活かされるために」と題して、脳外傷友の会 コロポックル理事薮中弘美氏から同会が作成したパーソナルノートの紹介があった。
- (4) グループワークを『地域医療再生計画推進事業費を活用した「高次脳機能障がいに対する適切な診断・サービス提供研修」について、支援者の立場から地域の現状と効果的な企画を考える』と題して行った。KJ 法で 7 グループに分かれて作業を行った。地域の現状については、診断が困難である、企業を含めた理解不足、相談窓口が周知されていない等の問題点が挙げられた。効果的な企画については、具体的な生活実態の伝授や実践に即した研修の必要性等が述べられた。
- (5) 最後に、北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課医療参事・廣田洋子氏、北海道大学病院リハビリテーション科教授・生駒一憲から同研修会への期待等が述べられ、閉会した。

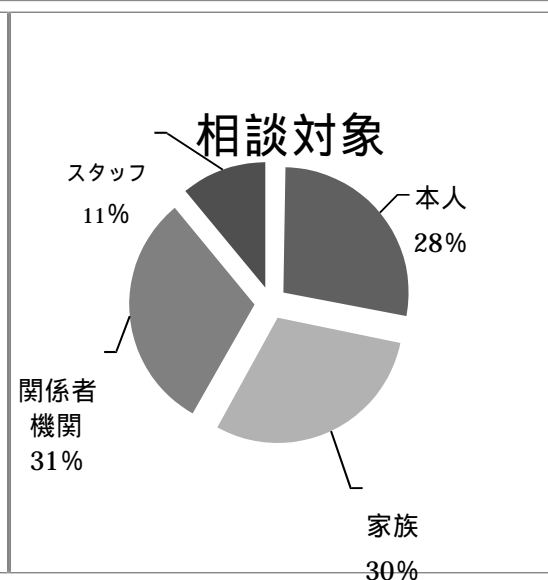
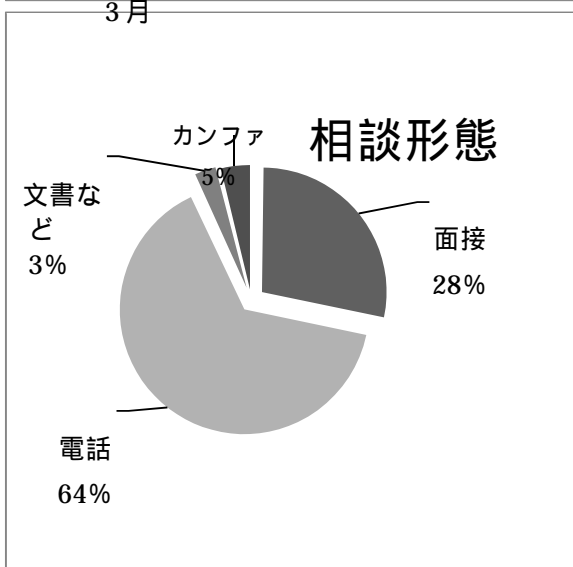
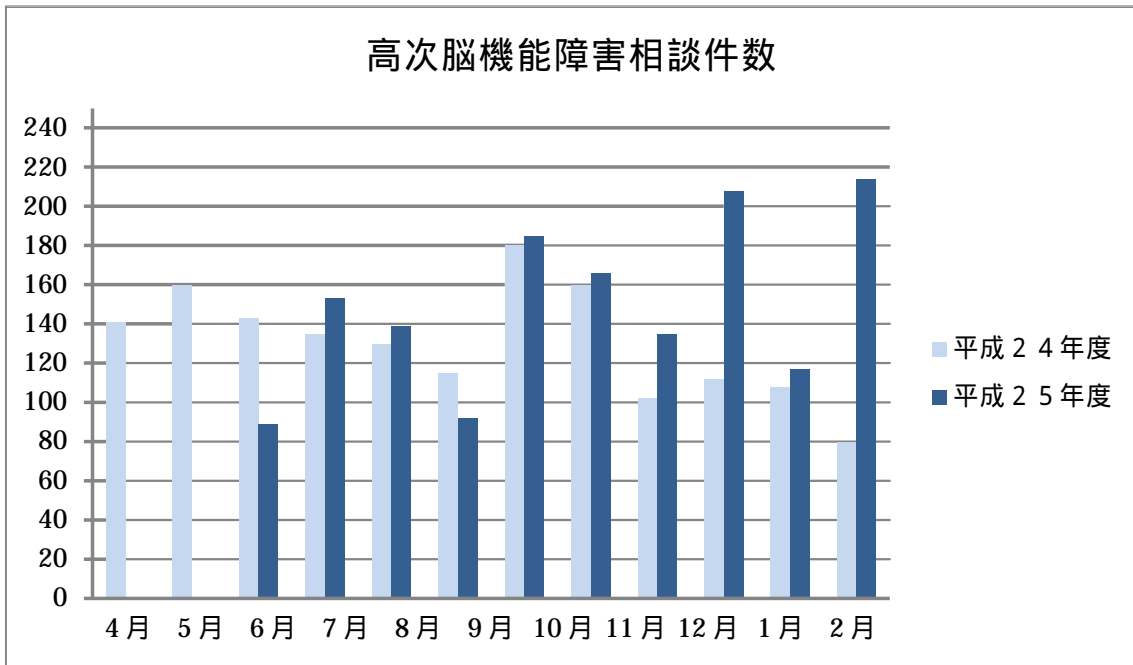
以上

平成25年度 高次脳機能障害支援事業報告(リハビリ支援コーディネート事業)

北海道大学病院 リハビリテーション科・リハビリテーション部

1.【相談件数】北海道大学病院支援コーディネーターによる平成25年6月1日(5月にコーディネーター

が新しく着任した理由から実質の相談は6月より実施)から平成26年3月31日までの相談件数は合計1176件、相談対象および相談形態は以下のグラフに示す



2.【著書・研究発表など】

【論文発表】

生駒一憲：認知機能に対する薬物療法とエビデンス．Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 50(7):525-529, 2013

澤村大輔：脳損傷後注意障害の作業療法．北海道作業療法,30(3),14-23,2013

【学会発表】安彦かがり，千葉春子，磯山浩孝，浦上祐司，松尾雄一郎，遠山晴一，生駒一憲：高次脳機能障害が後遺したびまん性軸索損傷(DAI)に拡散テンソル画像(DTI) FA-SPMimageを施行した4例．第50回日本リハビリテーション医学会学術集会，東京、2013.6.13-15，

大澤恵留美：カテゴリー特異的意味障害患者の回復過程．第14回日本言語聴覚学会、2013年6月28.29日

澤村大輔、生駒一憲、小川圭太、堀享一、境信哉：Moss Attention Rating Scale日本語版の鋭敏性の検討．第47回日本作業療法学会、2013年6月29日

小川圭太，澤村大輔，伊藤愛，角井由佳，堀享一，生駒一憲：外傷性脳損傷における脳挫傷とびまん性軸索損傷合併例の神経心理学的検査結果の比較．第47回日本作業療法学会，大阪国際会議場，2013年6月29日

小川圭太，澤村大輔，角井由佳，大澤恵留美，堀享一，生駒一憲：高次脳機能障害患者に対する外来集団訓練．第35回国立大学リハビリテーション療法士学術大会，アクトシティ 浜松研修交流センター，2013年9月13日

小川圭太，澤村大輔，角井由佳，大澤恵留美，堀享一，生駒一憲：高次脳機能障害患者に対する外来集団訓練．第44回北海道作業療法学会,アクセスサッポロ,2013年10月19日

大澤恵留美：カテゴリー特異的意味障害患者の障害機序．第37回日本高次脳機能学会学術総会、平成25年11月29.30日

澤村大輔：Active inhibition for task-irrelevant sound in patients with attention deficits after traumatic brain injury: An fNIRS study、30th International Congress of Clinical Neurophysiology (ICCN)of the IFCN、ドイツ ベルリン、平成26年3月19-23日

3.【講演会・研修会への参加・開催および所属員の講演について】

開催日	会の名称と概要	開催地など	担当者	参加者
2013.6.6	北海道作業療法士会	札幌医療リハビリ 専門学校	澤村大輔	100名
2013.6.10	平成25年度第1回高次脳機能障害事例 検討会(主催:北海道大学病院リハビリテ ーション科)	北海道大学学術交 流会館	生駒 一憲 堀 享一 大澤 恵留美 小川 圭太 澤村 大輔 角井 由佳 遠藤 敦子 玉川 侑那	98名
2013.7.29	高次脳機能障害者支援ネットワーク会議	苫小牧保健所	堀 享一	25名
2013.8.31	遠紋地域高次脳機能障害セミナー	オホーツク交流セ ンター	堀 享一 玉川 侑那	55名
2013.9.3	高次脳機能障害支援関係者研修会	江別市総合社会福 祉センター	堀 享一	27名
2013.9.9	平成25年度第2回高次脳機能障害事例 検討会	北海道大学学術交 流会館	生駒 一憲 堀 享一 大澤 恵留美 小川 圭太 澤村 大輔 角井 由佳 遠藤 敦子 玉川 侑那	37名
2013.10.8	家族のための学習会	苫小牧保健所	小川 圭太	10名
2013.11.2	北海道高次脳機能障害リハビリテーショ ン講習会(主催:北海道高次脳機能障害リ ハビリテーション講習会実行委員会)	北海道大学学術交 流会館	生駒 一憲 堀 享一 大澤 恵留美 小川 圭太 澤村 大輔 角井 由佳 玉川 侑那	274名
2013.11.15	第5回リハビリテーション懇話会、医療	池袋ホテルメトロ	生駒 一憲	150名

	法人社団健育会竹川病院主催	ポリタン		
2013.11.23	高次脳機能障害研修会(主催：NPO 法人 Re〜らぶ)	札幌市社会福祉総合センター	小川 圭太	50名
2013.12.2	高次脳機能障害地域支援ネットワーク会議	空知総合振興局	堀 享一	23名
2013.12.9	高次脳機能障害支援者研修	上川合同庁舎	堀 享一	84名
2013.12.13	平成 25 年度高次脳機能障害地域セミナー(主催：浦河保健所)	総合病院浦河赤十字病院	生駒 一憲	30名
2014.1.23	平成 25 年度第 2 回高次脳機能障がい者支援連絡会議および高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究平成 25 年度北海道ブロック会議	KKR ホテル	生駒 一憲 堀 享一 玉川 侑那	40名
2014.1.28	高次脳機能障害セミナー	恵庭市民会館	堀 享一	65名
2014.1.31	平成 25 年度高次脳機能障がい者支援者研修会	苫小牧保健所	生駒一憲	42名
2014.2.8	平成 25 年度高次脳機能障害事例報告会	北海道大学学術交流会館	生駒 一憲 堀 享一 大澤 恵留美 小川 圭太 澤村 大輔 角井 由佳 玉川 侑那	87名
2014.2.13	平成 25 年度高次脳機能障がい支援連絡会議	胆振総合振興局	大澤 恵留美 玉川 侑那	30名
2014.2.20~21	高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議	三田共用会議所	生駒 一憲 大澤恵留美 玉川 侑那	200名
2014.3.31	地域医療再生計画高次脳機能障がい者診断リハビリテーション等研修事業検討委員会	北海道庁	生駒 一憲	

4 .【他機関との連携状況】

日時	内容	目的	参加機関	参加職種
2013.7.11	支援者会議	生活支援、就労支援、 情報提供	障がい者相談支援事 業所、北海道大学病院	本人、家族、相談員、 支援コーディネータ ー
2013.7.18	カンファレンス	就労支援、情報交換	就業・生活支援センタ ー、障害者職業センタ ー、北海道大学病院	本人、就業支援員、障 害者職業カウンセラ ー、作業療法士、言語 聴覚士、支援コーデ ィネーター
2013.7.26	カンファレンス	復職支援、情報提供	保健所、就労機関、北 大病院	保健師、職場上司、支 援コーディネーター
2013.8.30	カンファレンス	就労支援	就業・生活支援センタ ー、北大病院	本人、相談員、支援コ ーディネーター
2013.9.10	カンファレンス	生活支援、就労支援、 情報交換	就労機関、北大病院	本人、家族、職場上司、 支援コーディネータ ー
2013.10.24	カンファレンス	就労支援、生活支援、 情報交換	就労機関、障がい者相 談支援事業所、北大病 院	本人、家族、職場上司、 相談員、支援コーデ ィネーター
2013.10.28	カンファレンス	生活支援	就労継続支援 B 型事 業所、北大病院	本人、サービス管理責 任者、支援コーディ ネーター
2013.10.29	症例検討	生活支援、就労支援、 情報交換	石狩市障害支援課、就 業・生活支援センタ ー、就労継続支援 B 型事業所、 障がい者相談支援セ ンター、 石狩市相談支援セン ター 北大病院	石狩市障害支援課障 がい支援担当、就労支 援員、サービス管理責 任者、 地域づくりコーデ ィネーター、相談支援専 門員、 支援コーディネータ ー
2013.11.15	支援者会議	生活支援、就労支援	岩見沢保健所、就労継 続支援 B 型事業所、 障がい者相談支援事	家族、保健師、サービ ス管理責任者、相談 員、支援コーディネー

			業所、北大病院	ター
2013.11.21	支援者会議	生活支援、就労支援、 情報交換	長沼町社会福祉協議 会・相談支援事業所、 就労機関、北大病院	相談員、アルバイト先 店長、支援コーディネ ーター
2013.12.5	カンファレンス	生活支援、就労支援、 情報交換	障がい者相談支援事 業所、北大病院	本人、家族、相談員、 支援コーディネータ ー
2013.12.10	支援者会議	就学支援、情報交換	養護学校、北大病院	担任教諭、教頭、校長、 支援コーディネータ ー
2013.12.26	カンファレンス	生活支援、就労支援、 情報共有	就労機関、障がい者相 談支援事業所、北大病 院	本人、家族、職場上司、 相談員、支援コーデ ィネーター
2014.1 . 15	カンファレンス	就労支援、情報共有	障害者職業センター 就労継続支援 B 型事 業所、北大病院	本人、サービス管理責 任者、就労支援員、職 業カウンセラー、作業 療法士、言語聴覚士、 支援コーディネータ ー
2014.2. 25	モニタリング、カンフ ァレンス	在宅支援、就労支援、 情報交換	グループホーム 相談支援事業所 北大病院	本人、妻、グループホ ーム施設長、世話人、 相談支援専門員、支援 コーディネーター
2014.3 . 14	支援者会議	就労支援	就業・生活支援センタ ー、北大病院	管理者、相談支援専門 員、支援コーディネ ーター
2014.3 . 19	カンファレンス	就業・就労支援	学校 北大病院	本人、両親、担任教諭、 学校内福祉課課長、医 師、看護師、支援コ ーディネーター
2014.3 . 20	カンファレンス	就労支援、情報交換	生活訓練事業所、北大 病院	本人、妻、生活支援員、 支援コーディネータ ー

2014.3.26	カンファレンス	就労支援、情報交換	障害者職業センター 北大病院	本人、妻、職業カウンセラー、作業療法士、言語聴覚士、支援コーディネーター
2014.3.28	モニタリング、カンファレンス	在宅支援、就労支援	グループホーム 相談支援事業所 北大病院	本人、妻、グループホーム施設長、世話人、相談支援専門員、支援コーディネーター

5.【その他】

< 院内での取組 >

高次脳機能障害ワーキンググループ：毎月1回(4.16、5.21、6.18、7.29、8.19、9.30、10.21、11.18、12.16、1.20、2.24、3.17)

(参加者：リハビリテーション科医師、看護師、リハビリテーション部セラピスト、ソーシャルワーカー)

平成25年度就労支援プログラム実施報告書 (中間報告)
 特定非営利活動法人コロポックルさっぽろ

1 実施状況及び件数

連絡調整（電話などによる情報交換）				クラブハウス	レディース
	職業センター		9		
	ハローワーク		16		2
	職場				
	その他支援機関		12		15
同行支援					
	職業センター		6		
	ハローワーク		6		4
	職場				2
	その他支援機関				8
面接同行			1		2
既就労者（前年度以前の就労者）の継続支援					
	相談				
	余暇支援		10		
家族との連絡調整			2		2

2 支援事例の支援計画の作成と評価

(1) クラブハウス

作成実績	就労準備支援（新規就労）対象者8名、就労継続支援者9名に対し、支援計画を作成
評価内容	新規就労者1名、9名に就労継続支援、7名に引き続き就労準備支援

(2) レディース

作成実績	就労準備支援（新規就労）対象者1名、就労継続支援者1名に対し、支援計画を作成
評価内容	1名に引き続き就労準備支援

3 支援調整・会議の開催

年月日	当事者名	行き先	参加者
H25.4.5	T.C.氏	障害者職業センター	本人、スタッフ、職業カウンセラー2名
H25.4.9	T.C.氏	S社	スタッフ、職業カウンセラー、ジョブコーチ2名、からびなスタッフ
H25.4.11	T.C.氏	障害者職業センター	本人、スタッフ、職業カウンセラー2名、
H25.6.3	M.S.氏	コミュニティスペース じゃがいも（地域生活支援センター）	本人、スタッフ、じゃがいもスタッフ
H25.6.13	I.H.氏	ハローワーク札幌東	本人、スタッフ、窓口スタッフ
H25.6.27	T.C.氏	S社	スタッフ、職業カウンセラー、からびなスタッフ、店長
H25.7.25	I.H.氏	ハローワーク札幌東	本人、スタッフ、窓口スタッフ
H25.8.8	I.H.氏	ハローワーク札幌東	本人、スタッフ、窓口スタッフ
H25.10.10	I.H.氏	ハローワーク札幌東	本人、スタッフ、窓口スタッフ
H25.10.15		合同面接会	当事者2名、スタッフ2名
H25.11.1	Y.M.氏	ハローワーク札幌	本人、スタッフ、窓口スタッフ
H25.11.21	I.H.氏	ハローワーク	
H25.4.18	K.K.氏	相談室あゆみ	本人、スタッフ2名、あゆみ相談員
H25.4.24	K.K.氏	M（就労継続B型事業所）	本人、スタッフ2名、M職員、あゆみ相談員
H25.4.26	U.M.氏	ハローワーク札幌北	本人、スタッフ、窓口スタッフ
H25.8.8	I.A.氏	レディース	I氏母、スタッフ、相談室ぽぽスタッフ
H25.9.11	U.M.氏	ハローワーク札幌北	本人、スタッフ、窓口スタッフ
H25.11.13	U.M.氏	ハローワーク札幌北	本人、スタッフ、窓口スタッフ
H25.11.20	U.M.氏	IS社	本人、スタッフ、企業担当者
H25.12.4	U.M.氏	ハローワーク札幌北	本人、スタッフ、窓口スタッフ
H25.12.11	U.M.氏	IN社	本人、スタッフ、企業担当者

4 関係機関相互の情報交換および状況の把握（上記会議以外、主な機関との実施状況）

実施日	関係機関名	支援状況
	ハローワーク（札幌、北、東）	本人の生活状況についてなどの情報交換
	障害者職業センター	就職活動に向けての状況確認（センターの利用が適切な段階かどうか）
	障害者職業総合センター	高次脳機能障害者に対する就労支援の実際を共同でレポート執筆

5 支援ネットワークの構築

機関名
障害者職業センター
ハローワーク札幌
ハローワーク札幌東
ハローワーク札幌北
障害者職業総合センター
大谷地病院
北海道大学病院
相談室ぼぼ
相談室あゆみ
コミュニティスペースじゃがいも
就労・生活相談室からびな
障がい者就業・生活相談室テラス
深川保健所

6 各地域相談担当者やサービス提供事業者への支援状況

	関係機関名	支援状況
H24.11.19	北海道大学医学部保健学科	作業療法学科の学生に対して、職業周辺作業療法の講義を行った
H25.2.27	深川保健所	就労支援事例検討会に参加（予定）

7 その他

既就労者に対し、電話相談、余暇支援（クラブハウス、レディースの行事に勧誘）を行う
クラブハウスにおいて、月1回の就職セミナーを行う

平成 25 年度北海道高次脳機能障がい支援事業実施報告書（中間報告）
「就学（準備）支援」

特定非営利活動法人コロポックルさっぽろ

1. 支援プログラムの実施状況

(1) 支援の対象者

	年齢	現在	性別	受傷原因	受傷後経過期間
1	17 才	高等養護 2 年	男	脳外傷	10 年
2	18 才	高 3	女	脳外傷	11 年
3	11 才	小 5	男	脳外傷	6 年
4	19 才	大学 1 年	男	脳外傷	8 年
5	18 才	高等養護 3 年	女	脳腫瘍	17 年
6	14 才	中 2	女	インフルエンザ脳症	12 年
7	14 才	中 2	男	髄膜炎	12 年
8	13 才	中 1	女	低酸素脳症	12 年
9	13 才	中 1	男	脳外傷	5 年
10	17 才	フリースクール	男	脳外傷	16 年
11	16 才	高 1	男	インフルエンザ脳症	4 年
12	18 才	養護学校 3 年	男	脳内出血	6 年
13	20 才	専門学校 2 年	男	脳外傷	9 年
14	15 才	高 1	男	脳外傷	6 年
15	6 才	小 1	男	脳外傷	3 年
16	14 才	中 2	男	脳外傷	9 年
17	13 才	中 1	女	脳脊髄炎	3 年
18	14 才	中 3	男	脳炎	2 年
19	11 才	小 6	女	心臓疾患	11 年

* 前年度から引き続き支援をしている方 16 名

* 平成 25 年度新たに支援をした方 3 名

(2) 相談件数 (2013 年 4 月～1 月 15 日)

	種別	回数
相談・支援方法	来所	4
	電話	20
	メール・郵便	12
	同行	1
支援内容	学校・進路など	25
	対応について	5
支援内容	親の会(家族会)について	2
	医療について	2
	専門機関・社会資源など	2
	その他	6

2 支援計画の作成と評価

作成実績	卒業後の進路で 1 名の支援計画を作成
評価内容	<p>高校卒業を控え、卒業後の進路について情報収集、見学などを進めるための支援計画を作成。</p> <p>評価： 他の家族の体験を聞いたり、就労支援が受けられる作業所見学などを行い、どんなことがしたいか、具体的なイメージを持てるような機会を持った。 の経験をふまえて、大学進学を選択し、どのように大学を選ぶか、苦手なことを大学にどのように伝えるかなど、進学後に心配な要素を検討した上で進路を決めることができた。</p>

3 支援調整・会議の開催

開催日時	開催場所	参加者数	内 容
4月6日 13:00~14:30	十勝管内 N 中 学校	9人	新入学を控えた当事者の支援に関わる 5 機関（中学校、町福祉課、町保健師、道保健所、コロボックル、当事者の保護者）が参集。直近まで入院していた H 県リハセンターの医療情報を中学校に伝え、今後の支援について話し合う。
10月28日 16:00~17:00	札幌市立 H 小 学校	6人	小学校 5 年生の当事者の担任教諭、特別支援教諭、校長先生、保護者、コロボックルが参集。今後の学びの支援について話し合う。
11月13日 15:30~17:00	苫小牧市立 T 小学校	8人	小学校 1 年生の当事者の担任教諭、他の特別支援担当教諭 5 名、保護者、コロボックルが参集。コロボックルから「小児の高次脳機能障害とその対応」について説明し、今後の学びの支援について話し合う。
毎週火曜日	コロボックル	2~3人	新規相談、支援者の現状と支援について打合せ

4 関係機関相互の情報交換及び状況の把握

実施日時	関係機関名	情報交換内容等
4月3日 4月4日 4月11日 4月18日 5月10日 5月25日 5月13日 6月18日	帯広保健所	・ 支援者会議について ・ 当事者・家族の情報と支援について ・ 事例検討会について
5月10日 7月25日 8月7日 8月21日	紋別保健所	・ 高次脳機能障害支援セミナーで発表する当事者・家族について

5 支援ネットワークの構築

機関名
北海道特別教育支援センター
北海道帯広保健所
北海道紋別保健所
北海道教育庁学校教育局健康・体育課
みずほ綜合法律事務所

6 各地域相談担当者やサービス提供事業所への支援状況

実施日時	関係機関名	支援状況
7月5日	秀友会病院	復学について
7月16日	宮城県リハビリテーション支援センター	子どもの支援ハンドブック送付
8月8日	石川県高次脳機能障害相談・支援センター	相貌失認の子どもの支援について
9月12日	岩見沢保健所	支援について
12月5日	札幌市立H小学校	高次脳機能障害の対応について

7 その他

学齢期の家族会を開催	学齢期の家族会：札幌を開催(7月20日) 参加：家族4人、言語聴覚士1人、弁護士1人、託児スタッフ3人、託児3人
高次脳機能障がい事例学習会に講師として参加	帯広保健所主催(7月8日) 参加：27名(保健、福祉、教育に関わる関係者)
北星学園大学で子どもの高次脳機能障害の支援について講義	肢体不自由教育方法論講座(1月20日)
高次脳機能障害者支援情報マップ作成事業にワーキング委員として参加	千葉リハビリテーションセンターが事務局となって作成中。 5月18日~5月19日、9月14日、1月25日(予定)

（1）高次脳機能障がい者に対する【授産事業所利用】支援のあり方について

①当法人における高次脳機能障がい者への支援について 当事者・家族を取り巻く生活のしづらさを解消するために、法人内での相談支援を実施していることに加え、必要に応じて医療機関や保健所、就労支援機関、行政や地域の相談支援事業所、他の障害福祉サービス事業所等の関係機関と連絡・調整を図る事で、包括的な対応を行っている。

②授産製品の取り組みについて 商品の質を上げるために、利用者の意見、専門家（コーディネーター、フードコンシェルジュ）等のアドバイスを受け、商品の高い質を目指した物作りに取り組んでおります。

また、販路拡大についても、現在10店舗にて販売していただいております。

具体的な活動としては、

- ・北海道や札幌市をはじめとする授産製品販売促進活動への取り組みに積極的に参加し、自主製品のPR活動及びバザー活動のなかで、高次脳機能障がい者も販売担当に加わって売り上げ向上に向けた取り組みを実施。このような活動を通して委託販売先が拡充となった。

（例）

- ・北海道とイトーヨーカ堂が協力して実施している「ナイスハートバザール」に出店。
- ・北海道が全面協力して26年1月下旬から実施される「北海道産授産製品販売キャンペーン」に自主商品を出品参加予定。
- ・企業からの受託作業を正確にスピーディーに行うことで信頼を得て、作業数が増加した。
- ・作業手順や方法を視覚で理解できるように工夫し、一人ひとりの能力や症状に応じた配置を行うことにより作業能力が向上、多能工を可能としている。

このことにより、授産事業所利用者に対する工賃支給額は平成25年度4月～12月実績において、

利用者全体の平均工賃額	16,591円
このうち高次脳機能障害者の平均工賃額	21,917円
（参考）北海道の授産事業所平均工賃額	18,531円（23年度）

となり、利用者の生活の向上と達成感を得ることができています。

これらの生産活動をおし、通所することにより基礎体力が付き、作業能力等の向上へとつながり、持続力、集中力等の労働習慣と意欲の向上もみられるようになるとともに、利用者の居場所になっています。

③高次脳機能障がい者が苦手とする周囲とのコミュニケーションについて

「絵本の読み聞かせ」を週に1度実施し、地域ボランティアの協力のもと、1冊の絵本をおし利用者個々の考えをありのまま表現することを相互に認め合うことで、自己肯定感が得られ、過去の出来事や現在の自分の思いを表現することに結びついていきます。

時には絵本の原作者が直接来訪され、一緒に参加されることで利用者のありのままの様子を聞き入れる事があります。

「絵本の読み聞かせ」活動が始まってから8年を経とうとしている中で、これまでの活動内容を1冊の本にまとめる活動が編集者を中心に現在進められております。

(2) これまでの【授産事業所利用】支援対象者について

当事業所の利用者に対し、地域社会で自立した生活を行えるよう、個々が抱える病気や問題等を解決できるよう、支援計画に基づき生産活動や作業、コミュニケーション能力等の向上を図るための活動を実施した。

また、当事業所利用者以外からの相談にも随時対応した。

【支援の実施状況】 (平成25年4月1日～平成25年12月31日まで)

(通所者の状況)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所者	13名	13名	13名	13名	13名	13名	13名	13名	13名			
実施日数	22日	23日	22日	23日	21日	21日	23日	22日	22日			
延べ日数	214	263	240	263	223	247	270	228	196			
1日平均利用者数	9.7人	11.4人	10.9人	11.4人	10.6人	11.8人	11.7人	10.4人	8.9人			

(通所者年齢構成)

～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	合計
1名	3名	5名	3名	2名	14名

(相談支援件数)

電話	来所	合計
48件	57件	105件

(相談内容内訳) 一部重複あり

相談支援	施設紹介・見学	情報交換等
54件	12件	51件

(主な相談対象経路)

- ・事業所利用者および家族
- ・当事者・家族、知人(?)
- ・支援拠点機関
- ・医療機関
- ・行政機関(保健所を含む)
- ・相談支援事業所、就業・生活支援センター
- ・障害者職業センター
- ・包括支援センター
- ・他の障害福祉サービス事業所

- (3) 【授産事業所利用】支援担当会議について
 (4) 【授産事業所利用】支援計画について

利用者14名に対して、本人及び家族の意向をもとに個別に応じた支援計画の原案を作成し、その後支援担当者会議にて話し合いのうえ、支援計画の提供を実施している。

実施に当たっては、毎朝のスタッフミーティングの中で利用者に関する状況や対応や支援した内容を話し合い、1か月に1度担当者会議の中で利用者1～3名の支援計画の見直しが必要かどうか図っている。

また、必要に応じて家族や医療機関、相談支援事業所、福祉事業所等、学校等と連携を図り、ケース会議を実施した。

(支援担当者会議の実施状況)

日時	参加者	日時	参加者
4月17日	4名	9月19日	4名
5月16日	4名	10月17日	4名
6月20日	5名	11月21日	4名
7月18日	4名	12月12日	4名
8月22日	4名		

(関係機関を交えたケース会議)

日時	場所	参加者	会議内容
4月19日	北大	利用者、家族、北大5名、スタッフ5名	利用者の評価入院の結果報告及び退院後に向けて支援の方向性の話し合い
9月26日	Re～らぶ	利用者、家族、スタッフ3名、包括支援センター1名 相談支援事業所1名	在宅生活における支援のあり方について話し合い
1月15日	北大	利用者、スタッフ3名 北大 4名 障害者職業センター1名	利用者の医療における再評価、職業評価を踏まえた今後の方向性の話し合い

- (5) 当事者・家族に対する【授産事業所利用】支援調整の方法について

当事者及び家族に対しては、随時相談に応じながら必要な場合に当事者・家族の同意を得たうえで各関係機関に相談や紹介等の連絡等を行っている。

(家族会の実施)

	開催日時	内容等
1回	平成26年3月開催予定	

(6) 【授産事業所利用】支援ネットワークを構築するための関係機関の選定 や方法について

医療機関や行政、就労支援関係や相談支援事業所、障がい福祉サービス事業所等の関係機関と包括的な連携を実施し、高次脳機能障がい者に対する様々な支援ネットワークを構築してきた。

(相談支援事業所等との支援ネットワーク)

関係機関名	情報交換内容等
就業・生活支援センター テラス	利用者の受け入れや日中活動の場面で、生活上での困りごとや、本人の就労に対するあり方などを、来訪や電話連絡等を通して情報交換を実施。 本人の在宅生活の大変さをテラスが自宅訪問等を実施し、今後に向けた支援のあり方を一緒に考えている。
相談室あゆみ、白石区第3包括支援センター、地域町内会、白石区役所	福祉制度の理解が難しい事業所利用者が在宅生活において家事援助等サービスの活用に向け、関係機関一同が集い、地域で安心した暮らしができるよう話し合いを実施。 実施後も関係機関とは電話連絡や来訪による情報交換や利用者との面談を実施。 また、制度上の改善を要望するため区役所担当者へ要望を実施。

(就労支援機関等との支援ネットワーク)

関係機関名	情報交換内容等
障害者職業センター	一般就労を希望する授産事業所利用者に対し、まずは、現在の就職に対する意向と現状の把握を理解するため、適性評価やガイダンスを受講中(2名分)。 また、ケース会議に参加してもらい、今後の見通しについての助言などを頂いている。

(地域との支援ネットワーク)

関係機関名	情報交換内容等
白石区地域自立支援協議会	白石区の医療、福祉、教育、行政等の関係機関が定期的集い、地域福祉の課題点を抽出し、改善が必要な場合は行政機関に働きかける活動を実施。その中に構成員として参加し、高次脳機能障がい者の実情と支援活動内容を伝えるとともに、活動内容が周知され、他機関からの相談に結びついています。

(障害福祉団体との支援ネットワーク)

関係機関名	情報交換内容等
きょうされん (北海道支部)	障害当事者が中心の全国組織において関係者が定期的集い、障害福祉を取り巻く課題を抽出し、行政に働きかける活動を実施。その中の構成員として参加し、高次脳機能障がい者の実情と支援活動内容を伝えることによって周知され、他機関からの相談に結びついています。

(7) 【授産事業所利用】に関する支援技術について

高次脳機能障がいへの理解促進及び授産事業所利用に関する支援方法等について、当法人の活動実践を通して以下の場所で報告してきた。

また、高次脳機能障がいに関する研修会を企画・開催すると共に、法人の活動や高次脳機能障がいについて啓蒙・啓発活動を実施した。

講演会等での事例発表

- ・平成25年6月10日
平成25年度 第1回高次脳機能障害事例検討会
「一般就労を強く希望され支援に苦慮した事例」
当法人事業所利用者の事例における経過報告
- ・平成25年11月2日 平成25年度北海道高次脳機能障害リハビリテーション講習会
事例発表「医療と連携した社会資源の活用」

研修会の企画・実施

- ・平成25年11月23日
平成25年度 高次脳機能障がい研修会
～講師および講演内容～
「高次脳機能障がいの症状の理解と支援のポイント」
講師 北海道大学病院リハビリテーション部
作業療法士 小川 圭太 様
「高次脳機能障がい者の就労について現状と課題とは」
講師 独立行政法人
高齢・障害・求職者雇用支援機構
北海道障害者職業センター
障害者職業カウンセラー 瓜生 彰 様

啓蒙・啓発活動

- ・平成25年12月11日
FM三角山放送局
「飛び出せ小規模作業所、地域とともに」

平成 25 年度 在宅生活支援事業 (中間報告)

公益財団法人 北海道精神保健推進協会
こころのリハビリ総合支援センター

利用者の状況

- ・今年度の利用登録者数：21 名（平成 25 年 4 月～9 月末）
- ・終了者数：1 名（体調不良による）
- ・新規通所：2 名

30 代男性：H25.2 初回相談その後相談面接、診察、関係機関との協議等を行い
8 月から通所開始

10 代男性：H25.6 初回相談 8 月から通所開始

当施設で行っている支援

【当事者への支援】

- ・グループを活用した社会性のリハビリテーション（自信の回復、意欲、活動性の向上、障害への気づき・理解、対処の工夫など）
- ・仲間作り
- ・個々の利用者にあった社会参加を検討、支援（家族を含めた面接、本人に係る他機関と支援者のつなぎなど）
- ・個別の問題に対応する治療的プログラム（コミュニケーショントレーニングなど）を実施、必要な利用者への働きかけ
- ・当事者、家族に対しての学習会の機会
- ・体調や今後の生活についての相談対応

【家族支援】

定期的な家族当事者合同面接 その他相談面接 家族の集まり等

【支援関係者への支援】

関係機関とのケース検討や支援者へのスーパービジョンなど

他機関との連携

連携先：リハ病院 S W、精神科病院 S W、市町村保健師、ケアマネージャー、事業所等関係機関職員等

- ・通所利用者に係る連携（情報提供、ケース検討等）
- ・利用検討に係る相談、問い合わせ
- ・利用可能な資源についての問い合わせ
- ・関係機関より当施設のリハビリ内容の問い合わせ等

今後の課題

- ・複数の支援機関での情報共有システム作りの難しさ
- ・事業所を含む就労支援において課題の共有の難しさや受け入れ機関の確保の難しさ
- ・社会的行動障害の方に対するリハビリテーションの確立の難しさ
- ・体系化された家族支援の構築

委託機関における事業実施状況（年度の実績報告より）

		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
リハビリ支援コーディネート事業 （北海道大学病院）		・リハ相談 3 回 ・症例検討会 10 回 ・研修会 5 回	・リハ相談 7 回 ・症例検討会 6 回 ・研修会 11 回	・リハ相談 7 回 ・症例検討会 8 回 ・研修会 12 回	・リハ相談 9 回 ・症例検討会 10 回 ・研修会 12 回	・リハ相談 7 回 ・症例検討会 8 回 ・研修会 17 回	・リハ相談 7 回 ・症例検討会 8 回 ・研修会 31 回	・リハ相談 10 回 ・症例検討会 6 回 ・研修会 23 回	・リハ相談 7 回 ・相談件数 1,176 件 ・症例検討会 20 回 ・研修会 12 回 コロボ
リハビリ提供・地域生活支援事業 （上段は委託事業者名）	就労（準備）支援事業		ツクルさっぽろ コロボ ・支援実施件数 184 件 ・担当者会議 12 回 ・支援計画作成 17 名	ツクルさっぽろ コロボ ・支援実施件数 246 件 ・担当者会議 21 回 ・支援計画作成 17 名	ツクルさっぽろ コロボ ・支援実施件数 128 件 ・担当者会議 21 回 ・支援計画作成 14 名	ツクルさっぽろ コロボ ・支援実施件数 120 件 ・担当者会議 16 回 ・支援計画作成 12 名	ツクルさっぽろ コロボ ・支援実施件数 120 件 ・担当者会議 27 回 ・支援計画作成 16 名	ツクルさっぽろ コロボ ・支援実施件数 120 件 ・担当者会議 25 回 ・支援計画作成 9 名	ツクルさっぽろ ・支援実施件数 134 件 ・担当者会議 28 回 ・支援計画作成 10 名
	就学（準備）支援事業		コロボツクルさっぽろ ・支援実施件数 4 8 件 ・担当者会議 51 回 ・支援計画作成 3 名	コロボツクルさっぽろ ・支援実施件数 101 件 ・担当者会議 49 回 ・支援計画作成 3 名	コロボツクルさっぽろ ・支援実施件数 169 件 ・担当者会議 51 回 ・支援計画作成 3 名	コロボツクルさっぽろ ・支援実施件数 173 件 ・担当者会議 52 回 ・支援計画作成 3 名 ・他事業所支援 2 件	コロボツクルさっぽろ ・支援実施件数 63 件 ・担当者会議 52 回 ・支援計画作成 3 名 ・他事業所支援 10 件	コロボツクルさっぽろ ・支援実施件数 76 件 ・担当者会議 52 回 ・支援計画作成 1 名 ・他事業所支援 3 件	コロボツクルさっぽろ ・支援実施件数 100 件 ・担当者会議 49 回 ・支援計画作成 1 名 ・他事業所支援 8 件
	授産事業				・講演会 1 回	・講演会 3 回	・講演会・講義等 9 回	・講演会・講義等 13 回	・講演会・講義等
	業所利用支援（H18は相談支援事業）	4 回 精神保健推進協会 コロボツクルさっぽろ ・利用実 32 延 584 延 2,762 件 ・相談件数 335 件 ・担当者会議 10 回 ・支援計画作成 9 名	Re~らぶ ・利用実 12 延 1,452 件 ・相談件数 38 件 ・担当者会議 12 回 ・支援計画作成 12 名	Re~らぶ ・利用実 43 延 4,679 件 ・相談件数 369 件 ・担当者会議 19 回 ・支援計画作成 37 名	・利用実 56 延 4,911 件 ・相談件数 629 件 ・担当者会議 18 回 ・支援計画作成 9 名 ・家族の会・学習会 15 回	コロボツクルさっぽろ ・利用実 51 延 5,513 件 ・相談件数 34 件 ・担当者会議 20 回 ・支援計画作成 37 名 ・他事業所等支援 8 回	コロボツクルさっぽろ ・利用実 11 延 2,234 件 ・相談件数 105 件 ・担当者会議 21 回 ・支援計画作成 37 名 ・他事業所等支援 5 回	コロボツクルさっぽろ ・利用実 58 延 6,042 件 ・相談件数 105 件 ・担当者会議 12 回 ・支援計画作成 58 名 ・他事業所等支援 13 回	Re~らぶ コロボ ・利用実 58 延 6,042 件 ・相談件数 126 件 ・担当者会議 12 回 ・支援計画作成 58 名 ・他事業所等支援 5 回
	在宅生活支援事業（H18は相談支援調査事業）	コロボツクルさっぽろ 道東支 ・利用実 11 延 571 件 1,375 件 ・相談件数 22 件 ・担当者会議 3 回 ・支援計画作成 2 名	精神保健推進協会 ・利用実 35 延 1,148 件 1,452 件 ・相談件数 149 件 ・担当者会議 3 回 ・支援計画作成 7 名	精神保健推進協会 ・利用実 21 延 944 件 ・相談件数 87 件 ・担当者会議 2 回 ・支援計画作成 7 名	精神保健推進協会 ・利用実 21 延 944 件 ・相談件数 54 件 ・担当者会議 9 回 ・支援計画作成 5 名 ・講演会 1 回 ・家族の交流会 52 回	コロボツクルさっぽろ ・利用実 20 延 949 件 ・相談件数 553 件 ・担当者会議 9 回 ・支援計画作成 5 名 ・他事業所支援 2 件 ・家族の交流会 16 回	コロボツクルさっぽろ ・利用実 20 延 949 件 ・相談件数 173 件 ・担当者会議 12 回 ・支援計画作成 2 名 ・他事業所支援 3 件 ・家族の交流会 16 回	コロボツクルさっぽろ ・利用実 22 延 1,504 件 ・相談件数 245 件 ・担当者会議 55 回 ・支援計画作成 2 名 ・他事業所支援 15 件 ・家族の交流会 71 回	コロボツクルさっぽろ ・利用実 22 延 1,504 件 ・相談件数 186 件 ・担当者会議 58 回 ・支援計画作成 10 名 ・他事業所支援 16 件 ・家族の交流会 71 回

平成25年度高次脳機能障がい及びその関連障がい支援普及事業「普及啓発支援事業」実績

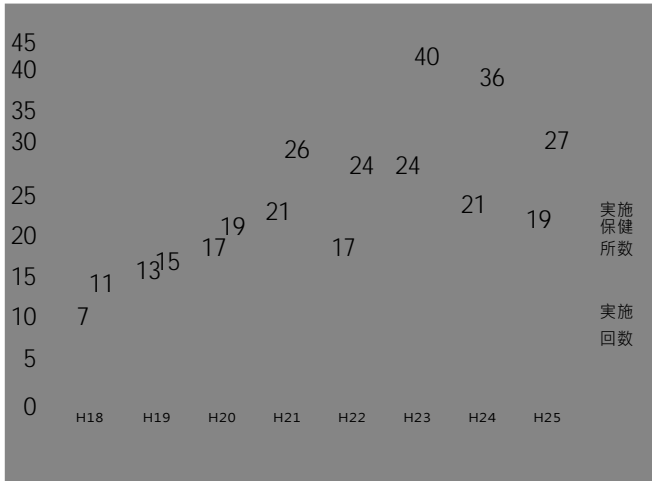
保健所別	普及啓発	関係職員研修	連携会議	事例検討	相談	新規	訪問指導	集団指導	他
江別		9/3 27名		9/3 27名	実7/延20件	5			
千歳	1/28 52名	1/28 52名			実9/延14件	7	実1/延2	当事者の集い2回実2延2 2家族の会2回実7延8	
渡島		8/24 53名	6/5 22名 3/10 13名	6/5 22名	実9/延10件 実9/延10件	1	実7/延21		相談窓口の周知リーフレット配布 (周知先を拡大)
八雲	3/14 43名	3/14 43名	3/14 14名		実5/延13件 (専門相談会1回3件)	4	実3/延5		・ネットワーク会議開催前に関係者に事前アンケートを実施し、支援状況を把握した。 ・ネットワーク会議開催にあわせて、コロナ禍で道南支部による家族交流会を開催した。
江差			3/19 12名		実1/延2件	0	実4/延7	家族の会1回7延7	
倶知安		10/22 29名	10/22 29名	9/9 5名	実8/延46件	2	実7/延19	家族の会1回実6延6	HP、パンフレットによる相談対応掲載・管内関係機関の現状把握し今後の連携を検討
岩内				6/4 5名	実1/延15件	0	実1/延2件		
岩見沢	11/14 115名		9/9 18名 12/2 25名	12/2 25名	実30/延183名	24	実8/延37	当事者の集い6回実9延30 家族の会6回実10延29	つどいにあわせて学習会開催 7/19 27名出席、 11/15 25名出席
滝川		1/30 34名	8/6 10名 3/7 9名	4/9 12名 7/12 4名 9/11 9名	実14/延25	8	実3/延7件	家族の会5回実6延17	支援実施の把握及び保健所事業の周知 中空知地域連携推進会議精神疾患医療専門部会で、高次脳機能障がい者及び支援の実態報告・協議2回延べ31名出席 コンサルテーション事業
深川		2/27 15名	2/27 15名		実1/延2件	2	実3/延4件		雨竜高等養護学校で健康教育を実施
上川	10/5 136名	12/9 69名	10/3 20名 3/14 20名	7/16 8名 9/5 8名 10/29 5名 2/28 8名	実10/延12件	8	実1/延3件		HP掲載内容更新(掲載医療機関調査実施)
名寄	9/27 44名		5/29 11名 9/25 15名 12/4 12名 3/5 12名	10/15 4名 3/4 4名	実1/延2件	1	実2/延4件		
富良野	10/2 32名	10/2 32名	2/25 25名		実3/延40件	1	実1/延3件		講演会でのリーフレット配布による相談窓口の周知
留萌					実1/延2件	1		家族の会1回実2延2	留萌地域連携バス協議会で報告 11/20 50名
稚内					実2/延6件	1			実態調査準備
室蘭	3/7 14名	3/19 50名	2/13 27名		実7/延13件	6	実2/延6件	当事者の集い4回実6延11 家族の会4回実11延13	
苫小牧	10/8 5名	1/31 42名	7/29 28名 2/25 17名	7/29 28名	実21/延61件	6	実2/延2件	当事者の集い6回実5延17 家族の会6回実5延14	
浦河		12/13 31名			実1/延1件	1			
静内				1/24 8名			実1/延14		HP掲載
網走			12/4 13名 2/20 34名						HP掲載、パンフレット配布、保健所管内社会資源
北見			2/20 34名		実5/延8件	1	実2/延3件	家族の会8回実9延29	
紋別	8/31 57名				実5/延58件	2	実2/延2件		普及啓発リーフレット作成・配布 自立支援医療システム情報把握 ケア会議
帯広	10/6 72名	10/6 72名	〇こころの健康推進会議7/2 19名 〇支援対策会議3/12 19名	【検討会】2回実2件延2件18名 【学習会】8/7 25名	実15/延43件	0	実4/延23	当事者の集い11回実33延140 家族の会1回実12延12	コロナ禍で道東支部事業の参加約30名 ワークショップの参加・協力約20名 資料作成の協力
釧路	11/16 80名				実3/延11件	0	実4/延8件		自主組織育成2回約16名 脳外傷リハビリテーション講習会 in 釧路実行委員会3回19名
根室	7/31 40名	7/31 40名	5/27 11名 7/31 11名 12/12 9名	5/27 11名 7/31 11名 12/12 9名	実2/延5件	1	実1/延1		
中標津		7/19 34名			実3延3	3	実2/延5件		
概要	26保健所のうち19保健所で、延27の実施。一般住民や支援関係者に対し、啓発普及の講演や研修を実施している。		連携会議を実施しているのは16保健所で25回、事例検討会実施は12保健所で22回実施。会議あるいは事例検討会いずれかを実施しているのは19ヶ所。		相談は24保健所で実158人延592 訪問指導は21保健所で実56人延178人を実施。今年度新たに支援対して85人を把握している。			当事者や家族に対し、小集団の形で主催支援を実施しているのは10保健所	

高次脳機能障がい及びその関連障がい支援普及事業

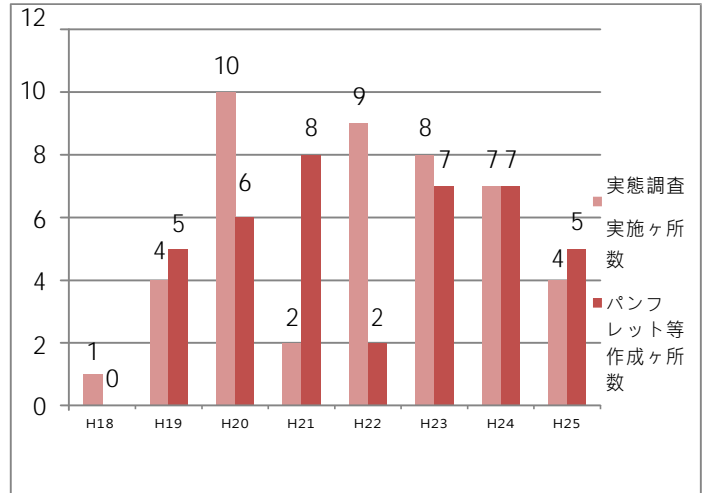
「普及啓発相談支援事業」の実績推移 (H18年度～H25年度)

平成18年度から平成25年度の8年間の道立保健所における「普及啓発相談支援事業」の実施状況を下図に整理した。

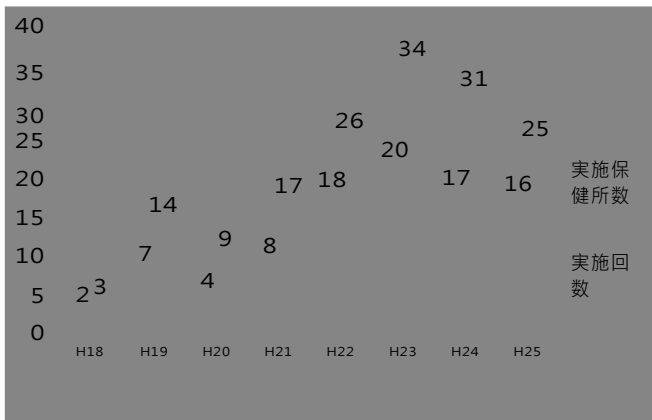
1 講演会及び研修会実施状況



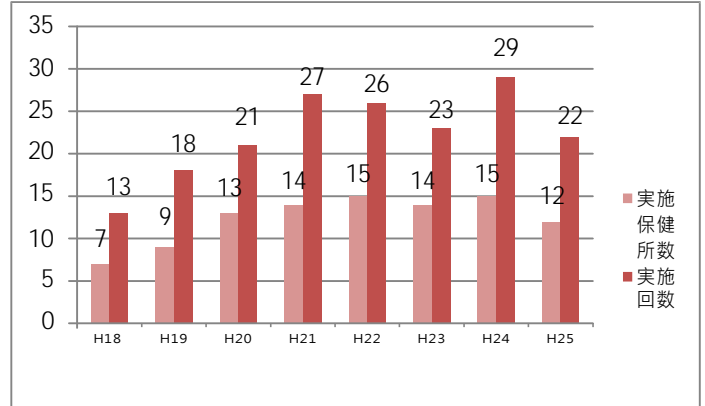
2 実態調査、パンフレット等の作成



3 ネットワーク会議の実施状況



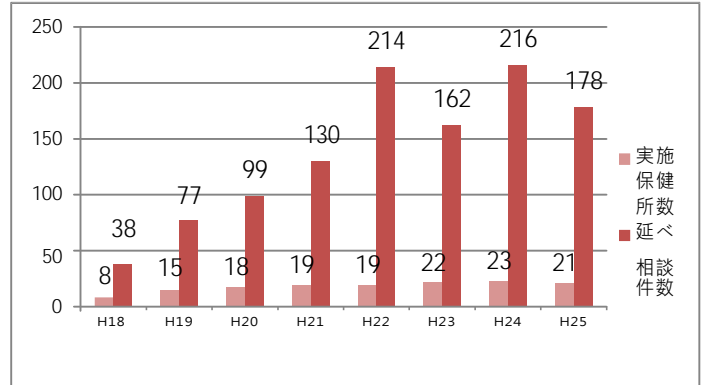
4 事例検討会の実施状況



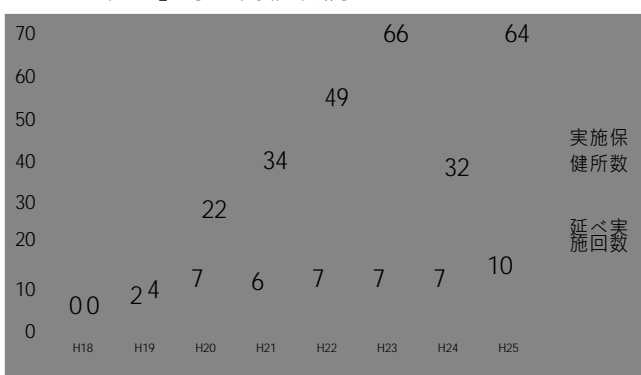
5 相談実施状況



6 訪問指導実施状況



7 「集い」等の開催状況



※研修や会議等、複数保健所による合同開催の場合は、実施回数は各保健所の実施回数として合算し計上。